

転出のご挨拶

(近畿大学薬学部医療薬学科 教授)

竹内 雄一

2024年3月末に北海道大学大学院薬学研究院を退職し、同年4月1日に近畿大学薬学部医療薬学科に教授として着任いたしました。

北海道大学では2021年8月より南雅文先生が主宰する薬理学研究室の准教授として勤務し、非常に充実した時間を過ごすことができました。南雅文先生には、お声をかけていただき、また私の考える研究を自由に展開させてくださり、大変感謝しております。

2021年は私にとってちょうどハンガリーでの研究留学を終えて落ち着いたところで、研究のアイデアはあるが、プロジェクト推進のための研究資金、共同研究者や学生を欠いていた状態でした。そのタイミングで総合大学である北海道大学に着任でき、薬学部内のみならず医学部、工学部、情報学部、教育学部、および低温科学研究所の優秀な研究者らとも共同研究体制を構築でき、外部研究費や薬学部の優秀な学生にも恵まれ、留学中から思い描いていた研究プロジェクトを開始し、進捗できたのは大変な幸運でした。

北海道大学での時間は、4年制の薬学部を卒業後久しく薬学から離れていた私にとって、6年制の薬学部における講義や実習等の教育活動を経験できたこと、および教授会を通して部局や大学の管理運営業務を経験できた点でも非常に実り多いものでした。北海道大学薬学部の雰囲気がとても気に入っており、薬学事務部の方々も含めて大変お世話になり、札幌には楽しい思い出しかありません。

この度、近畿大学薬学部への異動に伴い、皆さまとの距離が少し離れることとなりました。近畿大学では、薬物治療学研究室を主宰することになり、講義は主に薬物治療学や病理学を担当しております。近畿大学は私立大学ということもありCBTや国家試験対策も手厚く行う必要があるようで、北海道大学で培った知識や経験を基に、学部教育に対する態度を日々アップデートして取り組んでおります。

近畿大学の研究環境は非常に比較的空実しており、私がこれまで展開してきました「時空間特異的な脳刺激による新しい脳疾患制御法の研究開発」を継続できています。近畿大学やAMED、民間財団等による支援のおかげで、何とか北海道大学で享受させて頂いたような研究環境を近畿大学にも整備でき非常に幸運であると感じるとともに、北海道大学大学院生命科学院から

研究指導委託生として大阪と一緒に来てくれた学生への指導も問題なく実施できることに大変安心しております。

今後も皆さまとの交流を大切に、新たな共同研究や情報交換の機会を楽しみにしております。最後になりますが、北海道大学薬学部同窓会の皆様、さらには北海道大学でお世話になりました教職員の皆様、ますますのご発展とご健勝お祈り申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。